

English Wind

小学校全教職員及び

中学校英語科担当教員配付

英語教育の



1 新中学校学習指導要領(平成29年告示)における「話すこと[やり取り]」及び「即興」

- 新学習指導要領の移行期間である今年度は、各中学校においても新学習指導要領の内容を先行実施していたり、先んじて研究に取り組んだりしており、2021年の全面実施を見据え授業改善に取り組んでいます。
- その中でも、「話すこと[やり取り]」及び「即興」についての取組が多く見られます。中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月)の「(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項、①言語活動に関する事項、**エ 話すこと[やり取り] (7) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に回答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。**」の部分には、授業改善の参考となる以下のような記述がありますので、積極的に取り入れてみましょう。

会話を継続・発展させるために必要なこととして、**①相手に聞き返したり確かめたりする**(Pardon?/ You mean..., right? など)、**②相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりする**(I see. / Really? / That's nice. など)、**③相手の答えを受けて、自分のことを伝える**(I like baseball, too. など)、**④相手の答えや自分のことについて伝えたことに「関連する質問」を付け加える**(What kind of Japanese food do you like? / How about you? など)、などが考えられる。

特に、やり取りにおいては、話の切り出しや質問の仕方、その内容などが会話の流れや方向性を決めることが多いため、自ら話のきっかけを作ったり対話を始めたりすることや、会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にしたりする場面を様々な言語活動の中に設定することで、会話を継続する力が習慣的に身につくようにしたい。また、指導の重点を内容の伝達に置きながら、活動中の言語使用について具体的にフィードバックしたり、活動後に生徒が自分の使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認する機会を与えたりすることも重要である。

会話
継続

①聞き返し+確かめ

②相づち+つなぎ

③受信+発信

④関連する質問の追加

フィードバック
振り返り

2 資質・能力を育成するために ～平成30年度全国学力・学習状況調査の英語予備調査から～

- 今年度、全国学力・学習状況調査の英語予備調査が実施されました。本県でも抽出校において、新聞報道及び文部科学省のHP等で公表されている調査問題に取り組みました。各校では既に調査問題に目を通し、授業実践の参考にしていることと思います。来年度には、本調査として実施されることは周知のとおりです。
- 是非、各校で再度調査問題を分析することを通して、将来、子どもたちに必要となる資質・能力を育成するための各設問に込められたメッセージやヒントを参考に、これからの外国語の授業づくりに生かしていきたいものです。特に「目的・場面・状況等」が具体的に設定されていることに、留意したいものです。

英語予備調査問題に込められたメッセージ

求められる資質・能力とは?

県中教育事務所 外国語教育の「風」

「アイデア盛りだくさん 活気あふれる外国語活動の実践」

～県中地区 外国語教育推進リーダー 慶徳ひろ子 教諭～

県中教育事務所域内では、石川町立石川小学校の慶徳ひろ子教諭が外国語教育推進リーダーを務め、本務校の石川小学校と派遣校の野木沢小学校及び沢田小学校で計15学級、約400名の児童を指導しています。慶徳教諭の実践から、特筆すべき点を紹介します。



1 単元目標を明確にし、毎時間の授業を構想している。

「友達にバースデーカードを渡せるようにする」等、単元の終わりまでに児童ができるようになることを目標として設定しています。レッスンプランは毎時間作成し、ALTと打合せをしています。

2 授業をする教師自身が英語を話すモデルとなっている。

できるだけ英語を使って授業を進め、児童には間違いを恐れずにどんどん英語を話そうと伝えていることもあり、児童が元気よく英語で話そうとする姿が多く見られます。

3 児童にとって必要感のある多様な言語活動を設定している。

児童が必要感を感じることが目的・場面・状況を含んだ言語活動を設定し、児童同士が気持ちや考えを伝え合う機会を保障しています。

4 児童一人一人の学習状況を把握し、指導と評価の一体化を図っている。

授業の終わりにALTと分担して児童一人一人と短い問答を行い、学習状況を把握しています。また、「振り返りカード」を活用し授業を振り返らせ、評価に役立てるとともに、次時の指導に生かしています。

6月14日（木）に実施した県中地区の小学校外国語活動担当教員指導力向上研修会では、慶徳教諭から実践例を発表してもらい、参加者から好評でした。県中教育事務所としても、慶徳教諭の実践を域内の先生方にさらに還元できるよう努力してまいります。

いわき教育事務所 外国語教育の「風」

「外国語活動、待ち遠しいなあ・・・。」

～いわき地区 外国語教育推進リーダー 一ノ瀬 由美 教諭／本好 利彰 教諭～

いわき域内では、いわき市立小名浜東小学校の一ノ瀬由美教諭といわき市立泉小学校の本好利彰教諭の2名が推進リーダーとして自身の役割を自覚し、事業推進に取り組んでいます。一ノ瀬教諭は、小名浜東小学校（本務校）と小名浜第二小学校・永崎小学校（派遣校）の併せて27クラス（716名）、本好教諭は、泉小学校（本務校）と渡辺小学校（派遣校）の併せて25クラス（686名）の外国語活動の授業を行っています。

【一ノ瀬教諭の実践から】

Classroom English を使うことはもちろん、活動のやり方をALT（時には児童）とのデモンストレーションを通して理解させるなどして、できるだけ英語で授業を進めています。始めは戸惑っていた子ども達も、慣れてくるにしたがって理解できるようになってきました。

【本好教諭の実践から】

授業は、All English で行うことを基本としています。パワーポイントなどの視覚教材を各学年の児童の発達段階に応じて活用することで、子どもたちの推察する力も育てています。また、「目的・場面・状況」を適切に設定し、必然性のあるやりとりを子どもたちが行えるような授業を組み立てています。

【共通の取組】

両リーダーとも、授業の振り返りをとても大切にしています。子どもたちがお互いの「よさ」を認め合い、共に学ぶ姿勢や自己肯定感・自信が得られる終末になるよう工夫し、次時への期待感ももてるようにしています。

☆ 推進リーダーの授業を、子どもたちは毎回楽しみに、そして心待ちにしています・・・。